

平成 25 年度 生駒市行政改革推進委員会

第 9 回 会 議 録

開催日時 平成 25 年 12 月 16 日（月） 午後 4 時～午後 6 時 30 分

開催場所 生駒市コミュニティセンター 2 階 206 会議室

出席者

（委 員） 森委員長、松山副委員長、藤堂委員、岡本委員、奥田委員、楠委員、松本委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、牧井企画政策課主事、石村企画政策課係員

（傍聴者） なし

欠席者 幸元委員

議事内容

1 開会

2 案件

(1) 行政改革大綱 後期行動計画（案）について

（森 委 員 長） 今日のメインの議題は後期行動計画（案）の確定とパブリックコメントの実施方法の確認である。まず、前期行動計画の平成 25 年 9 月末時点での取組状況について、奥田委員から意見があり、それに対して事務局から対応案が出ている。これについて、事務局から説明をお願いします。

【資料 1 行政改革大綱 前期行動計画取組状況（H25.9 月末時点）に対する意見及び対応の説明】

（奥 田 委 員） 2 点目の意見について、私が言いたかったことは、年度末の目標だけでなく、9 月末時点での目標も設定すべきということである。全ての取組について、半期の目標を設定すれば、評価しやすくなるのではないか。

（森 委 員 長） 事務局としては、9 月末時点での取組状況の確認は、評価ではなく、報告の意味合いが強いのか。

（事 務 局） はい。

（森 委 員 長） 半期の目標を設定することで行政運営が何らかの形で改善されるのであれば、設定する意味はあると思う。現時点では、当委員会と

してもそこまで踏み込んだ議論はできなかった。今年度末の取組状況を確認する際に、もう一度議論してはどうか。

(事務局) 1年間の目標を設定しているのに、上半期では達成できない目標も多く、それらの評価がCになるのは想定済みである。

(岡本委員) 前回の資料1の7ページについて、「プラスチック製容器包装分別収集事業を全市を対象に実施する」では、目標を下回るペースで推移しているがC評価となっている一方で、「大阪湾フェニックス搬入事業」では、目標を上回るペースで推移しているがC評価となっており、評価基準が定まっていない。中間時点での評価を廃止するか、中間時点での評価基準を作るかどちらかにすべきである。

(森委員長) 今のままでは、中間時点の評価自体がいい加減になってしまう。

(岡本委員) 今のペースで取り組めば年度末の目標を達成できるが、まだ目標には達していないのでC評価としているところもあれば、順調に取組が進んでいるのでB評価としているところもある。

(森委員長) 現状では評価があいまいになってしまうため、中間時点で評価する意味がない。事務局としては、中間時点の評価をすることによって、ねじを巻きなおし、各担当課の頑張りにつなげる意味があるということであるが、奥田委員や岡本委員の意見はもっともであり、改善の余地はあると思う。

(岡本委員) 半期での目標を設定できる項目は良いが、例えば市民満足度調査の結果を目標として設定している項目等については、半期での目標を設定することは、技術的に難しい。

(楠委員) 中間時点での評価は、年度末の目標に向けて中間時点での状況を評価して、今後どうしていくべきかアドバイスをすることが目的なのか、項目ごとに半期の取組状況を確認し、目標に達していればB評価、達していなければC評価という評価をすることが目的なのか。

(奥田委員) 人事評価に反映すると聞いたのだが。

(事務局) 人事評価については、また別に半期ごとの目標を設定している。部の仕事目標については、市長マニフェストと同じような感覚で、1年間の目標を設定している。市長マニフェストでは、例えば3年後に達成することを目標としているものであっても、1年毎に達成状況を調査している。部の仕事目標も市長マニフェストと同様である。中間時点で評価をするのは、上半期の取組を振り返り、進行が遅れているものを確認することが目的である。現在は、人事評価に合わせて、行政改革推進委員会に報告させていただいている。

(松本委員) そうであるなら、評価をするのではなく、達成の見込みや目標を

達成するためのこれからの取組を記載してもらった方が良いのではないか。

(事務局) 評価等については、部の仕事目標の上半期達成状況について、各担当課が作成した資料をそのまま引用している。あまり中間時点の評価は重視していない。

(岡本委員) 評価する者が皆同じ認識を持って評価しているのであれば良いのだが、評価する者によって基準が異なっている。認識を統一しなければ、見ている人は分からないのではないか。この資料は公開しないのか。

(事務局) 会議の資料としては HP に掲載される。来年度からは、部の仕事目標の中間時点の評価を実施しない予定である。

(森委員長) 全ての取組について、半期での目標を設定するのは難しいか。そこまでの意味は見出し難いのか。

(事務局) そこまでする必要はないと考えている。

(森委員長) 確かに全ての取組に対して、半期での目標を設定するのは難しい気がする。1年間かけて目標を達成することができれば良いということか。

(事務局) はい。この行動計画についても、1年間の目標設定をしている。

(森委員長) 半期の目標を設定しないのであれば、その目的に合った評価をする必要がある。しかし現状は、部局によって評価基準が異なっており、目的を果たせていないのではないか。客観的に評価できる基準が必要であり、今の評価区分では統一性がない。評価基準を検討し直してもらいたい。評価の根拠や本当に達成できるのか等を記載してもらいたい必要がある。

(松本委員) 大切なのは、1年間最後までやり切ることである。中間時点の評価が、最後までやり切るインセンティブになるようなものにしてほしい。

(森委員長) 評価が悪ければ、そうなった原因を突き詰め、それをどのように克服するのかを記載してもらいたいということだと思う。そこまで求めるのは難しいか。

(事務局) この資料は部の仕事目標という部長のマニフェストのようなものを引用しており、松本委員がおっしゃっている事項については、「今後の取組」の欄で記入してもらっている。また、年度末時点で C 評価や D 評価であるものについては、達成できなかった理由を記載してもらっているようにしている。評価する者によって差があるのは確かなので、今後評価基準の統一に向けて検討していきたい。

- (森 委 員 長) 事務局としては、評価基準の統一を図っていくということと、今後の取組についても記載内容を充実したものにしてもらおうよう各部署に呼びかけることで対応したいということ。せつかくの機会なので、統一的なマニュアルを作ってほしい。
- (岡 本 委 員) 中間時点での評価を公開するのであれば、C 評価がこれだけ多くなっている理由を注釈として記載すべきである。
- (事 務 局) 部の仕事目標については、上半期、下半期に分けて目標を設定している人事評価と重複している部分があるので、人事評価だけに統一してはどうかという話もあり、来年度に中間時点の評価を実施するか検討しているところである。もし、来年度も実施するのであれば、委員会からの意見も参考にさせていただきたい。
- (森 委 員 長) 業務を整理していくことは必要だと思う。その上で、来年度も実施するというのであれば、委員会からの意見を反映してほしい。また、岡本委員が言うように、公表するのであれば、C 評価が多くなっている理由を記載してほしい。これで良いか。
- (各 委 員) 了承
- (森 委 員 長) 次に、後期行動計画（案）について、1 つずつ確認していく。まず、全体に対する松山副委員長の意見について、事務局から説明をお願いします。
- (事 務 局) 松山副委員長からいただいた意見については、概要版を作成することで対応したい。概要版については、資料 4 の 2 枚目に記載している。
- (森 委 員 長) この概要版はホームページの関連する場所に掲載されるのか。
- (事 務 局) 本編と合わせて公表する予定である。
- (松山副委員長) 委員は何度も議論しているので、内容を理解できるが、市民はこれを読んでもなかなか理解できないと思う。前回もパブリックコメントの提出件数が少なかったはず。
- (事 務 局) 前回は 0 件であった。
- (松山副委員長) 市民はこれを見ても何も意見できないと思う。行動計画を見ても、生駒市の行政改革の全体像が分からない。委員は、会議で何度も見ているからイメージできるが、市民には分かりにくいと思う。山下市長になってから、どのように行政改革が進んだのか、生駒市の行政改革の全体がイメージできるような資料がほしい。
- (奥 田 委 員) 概要版でもいきなり「行動計画の位置付け」となっている。これでは分かりにくい。
- (松山副委員長) この行動計画の争点は何なのか、全体像が掴めるようなものがほ

しい。

- (事務局) パブリックコメントの際は、行政改革大綱や前期行動計画も掲載する予定である。それによって全体像は分かると思うのだが。また、意見をいただくべく、広報紙やホームページに掲載するなど、市民の目に留まるように工夫はしている。
- (松山副委員長) 行政改革の沿革を行動計画に記載してはどうか。
- (森委員長) 提出した意見は出来る限りきちんと反映するということが伝われば、意見を出そうという気になってくれるのではないか。結果として意見が出るかどうかは別として、そういった姿勢を見せる必要はあると思う。
- (岡本委員) 「ご意見をお寄せください」と言われても、何に対する意見を書けば良いのか分からない。意見の記入例を書くべきではないか。
- (松山副委員長) この行動計画は完成されすぎている。もっと争点を明確にすべきではないか。
- (事務局) 争点や記入例等を記載すると、意見の誘導と誤解を招くおそれがある。
- (岡本委員) 他市ではこんな意見があったという例を記載してはどうか。意見を出しやすくするような体制を整えるべき。
- (事務局) 市としては、まず見てもらうということに重点を置いている。ホームページのトップページに載せても、なかなか見てもらえない。
- (森委員長) 例えばこういう意見を出してもらえないかといったことを記載したり、意見を出してもらえれば出来る限り反映させていきたいということを記載するなど、市民に興味を持ってもらう工夫が必要である。現状のパブリックコメントは立て板に水というイメージで、意見を言っても、適当に理由をつけて跳ね返されると思われているのではないか。本委員会はそうではないということを明確にすべき。
- (藤堂委員) この案件に限らず、生駒市のパブリックコメント全体のことである。
- (森委員長) 事務局でもう一度検討してほしい。「(1)行政運営の状況の分かりやすい情報提供・効果的な情報共有」について意見はあるか。個人的には、分かりやすい情報提供と市外からの人口流入が混在してしまっている気がしたのだが。
- (岡本委員) 「現状と課題」について、“定住人口”の増加と記載しているが、本来生駒市が求めているのは、“労働力人口”の増加だと思うのだが。
- (森委員長) 退職してから生駒市に移住してくる人はいるのか。
- (事務局) あまりいないと思う。

- (森 委 員 長) この箇所は“定住人口”とする。「(2)情報共有の充実に向けたツールの活用」について、奥田委員の意見に対する対応を事務局から説明してほしい。
- (事 務 局) 「たけまるモニター制度の効果的な運用」の指標は、アンケートの回答者数にするのが適切ではないかということだが、担当課としては、当面は登録者数を指標としたいということであった。たけまるモニターの登録者については、適宜更新している。
- (奥 田 委 員) アンケート 1 回あたりの回答数を目標にしてはどうか。また、登録については、転居したり、死亡したりという連絡がなければ、削除されないという話を聞いている。例えば 1 年間全く回答がなければ登録を削除する等してはどうか。
- (岡 本 委 員) 数値目標がほとんど横ばいになっている。人口 12 万人のうち登録者が 1,000 人というのは妥当な数なのか。どこでも講座の実施回数も横ばいである。これが目標といえるのか。これ以上増やすことは物理的に難しいというのであれば分かるのだが。
- (松山副委員長) たけまるモニターは 27 年度から 28 年度で増えないということか。何名程度の登録者がいれば安定的なアンケート結果が得られるのか。
- (岡 本 委 員) 横ばいの目標を掲げるのであれば、違う目標を掲げてはどうか。
- (松 本 委 員) 登録者がどういった層に分散しているのかも分からない。また、アンケート結果を見ようとしても、自由意見は市のホームページから検索しないと見ることができないので不便である。
- (森 委 員 長) 回答数を目標とすることは難しいのか。
- (事 務 局) 目標として設定することはできるが、回答数を上げる方法が難しい。登録者数は、市の努力により増加させることが可能で、取組を進めやすい。
- (森 委 員 長) 登録者の見直しはしていないのか。数値目標は 1,000 人で横ばいだが、実質的な登録者数が増えると考えて良いのか。
- (事 務 局) メールを送って、エラーメールが返ってくる方は登録者として数えていない。現時点でメールを送信できる登録者が 897 人いるということである。
- (森 委 員 長) 目標を 1,000 人としているのには理由があるのか。
- (事 務 局) 頑張っただけで広報等をして、1,000 人が限界ということだと思ふ。
- (松 本 委 員) たけまるモニターについて、行政改革推進委員会に入るまで知らなかった。広報が足りていないのではないか。
- (藤 堂 委 員) 1 年毎に登録を更新するか確認するメールをすることで、実質的な登録者数を増やすことができるのではないか。

- (森 委 員 長) 事務局としては、努力をしても 1,000 人以上は増やすことが難しいということである。アンケートの回答率が低いということなので、効果的な運用を図っていく必要がある。年度末に更新確認のメールを送る等の工夫により、実質的なたけまるモニターを確保する取組をするということを前提に、登録者数を数値目標にすることとしてはどうか。どのようにしてインセンティブを高めていくか。
- (事 務 局) 数値目標はたけまるモニターの登録者数とし、登録者の質を向上させていきたいと考えている。
- (森 委 員 長) 実質的な登録者数を増やすことが大事なので、運用をきちんとしてほしい。それが前提の目標数値であれば、納得できる。
- (岡 本 委 員) 取組内容を“～登録者の拡大と効果的な運用（回答率の向上等）”と修正することはできないか。
- (森 委 員 長) “効果的な運用”とするとあいまいになるので、“活発な運用”と表現を修正することとする。
- (岡 本 委 員) どこでも講座の実施回数について、上半期で 45 件実施しているのであれば、年間で 90 件程度実施できるはずである。目標が低いのではないか。
- (事 務 局) 広報広聴課が直接講座を実施しているのではないことや担当課との日程等の調整が必要であること、また、市民から要望があった場合に実施するものなので、目標を低く設定している。
- (森 委 員 長) 90 件を超える年度もあったが、今後の目標としてはこの程度で設定したいということか。
- (事 務 局) はい。PR をしているし、受講者からは好評を得ている。
- (森 委 員 長) 人数の要件を 10 人から 5 人に減らす等の工夫をすれば増えるのではないか。市民から要望があって開催するものなので、数値目標を上げるのもそう筋が良い話ではない。数値目標は 70 件のままにするが、市民から人数の要件を緩和してほしいとか、時間の融通を聞かせてほしいといった要望があれば柔軟に対応してほしい。
- (藤 堂 委 員) たけまるモニターに登録している人がいくつかのツイッターのフォロワーになってくれれば、ツイッターのフォロワー数も増えるのではないか。もっと簡単にフォローできる体制を整える等工夫すれば良いと思う。
- (森 委 員 長) 利用促進を図るということなので、可能性を追求してもらい、年度ごとに状況を確認することとする。「(3)市民自治協議会の設立拡大と運営支援」について、プラットフォームでは分かりにくいという意見があったことから、対応案として“設立準備会”という言葉

を付け加える案が提示されている。また、私の意見として、地域コミュニティと住民同士のつながりについての記載はあるが、行政と住民の関係についての記載がないため、文章を加えてほしいということで対応案が示されていることから、この案で修正したいと思う。

(森 委 員 長) 「(4)市民、NPO など協働のパートナーへの支援」については、奥田委員の意見を受けて、小数第 2 位まで記載したということだが、よろしいか。

(奥 田 委 員) はい。

(岡 本 委 員) 「(5)市民政策提案制度の効果的な運用」について、意見提出件数が 0 件となっているが、いつからスタートしたかを記載すべきではないか。件数が 0 件だと、誤解を生むと思う。

(事 務 局) 計画決定時には、数値は更新する予定である。

(松 本 委 員) どういったものを提案すれば、政策と認めてもらえるのが難しい。

(事 務 局) 10 人以上の署名が必要であるなど、一定のルールを設けている。

(森 委 員 長) 単なる要望から具体性をもった提案まで様々だと思う。

(事 務 局) 単なる要望は排除している。

(森 委 員 長) 9 ページの行革トピックスについて、奥田委員の意見を踏まえ事務局から修正案が出されているが、これで良いか。

(奥 田 委 員) はい。

(森 委 員 長) 「(9)既存公共施設等の活用と長寿命化に向けた中長期的な計画策定」について、公共施設白書の策定とあるが、ハード面を重視しすぎているように感じる。例えば、施設の活用方法について、住民の声が反映されるような白書にした方が良いのではないか。もっと市民協働を意識したものにしてほしいという意見である。

(事 務 局) この公共施設白書は、施設の修繕に今後どれだけ費用が掛かるのか等を示したものであり、施設を統廃合するかどうかについては、白書を踏まえた上で検討していきたいと考えている。

(奥 田 委 員) 「目標／得られる効果」について、“～安全性の確保により、長寿命化を図ることができ、施設の有効活用が可能となる”とあるが、理解しにくい。

(事 務 局) 「現状と課題」で“計画的に施設の改修、機能更新を実施し、適正な維持管理の継続により施設の安全性を確保しなければならない。”と記載しており、それを踏まえた上で内容なので、理解いただけると思う。

(岡 本 委 員) 公共施設の耐用年数は決まっているのか。

- (事務局) 鉄筋コンクリートの建物であれば 50～55 年程度と考えるが、施設によって異なる。
- (岡本委員) 民間企業では、減価償却の考え方がある。
- (事務局) 市では、減価償却という考え方をあまりしていない。
- (岡本委員) 耐用年数についての考え方は、公共施設と民間企業で同じなのか。
- (事務局) だいたい同じ考え方である。近年は、橋や施設については、補修により耐用年数を伸ばそうという考え方である。
- (森委員長) 法定で耐用年数が決まっているが、それ以上に伸ばすということか。
- (事務局) はい。つくり直すとなるとかなりお金が掛かる。
- (森委員長) 「(10)広域連携を活用した事業等による市民サービスの向上」について、今のところ具体的なものは消防の指令センターだけなのか。
- (事務局) 今のところそれだけだが、平群町や奈良市等と広域連携に関する協議はしている。現状では、平群町の市民プールを生駒市民が使えるようにしてもらっているし、逆もしている。
- (森委員長) 「(11)環境マネジメントシステムの推進による公共施設の省エネルギー化」の「再生可能エネルギーの活用」について、小水力発電を拡大することはできないか。市としては、これ以上適正な場所は存在しないということか。
- (事務局) 担当課としては、他の場所では実施することは難しいということ。山崎浄水場で実施している小水力発電は、奈良県営水道から生駒市に水を送る際の圧力を使って発電している。
- (森委員長) もう一点、「スーパーエコスクール実証事業の実施」について、公共施設の省エネルギー化は良いのだが、学校における環境教育などのソフト面も考慮すべきではないかという意見を受け、修正してもらっている。
- (岡本委員) 「環境マネジメントシステムの推進」の合格証取得について、市としては、どこまでも上のレベルを目指していくつもりなのか。
- (事務局) 現時点では、まだ上を目指していく予定である。ある程度のステージまで進めば、ここまでで良いということになるかもしれない。もっと高いレベルの市町村もあり、経費の削減にもつながる施策である。
- (岡本委員) しかし、どこかで限界は来るのではないか。
- (奥田委員) 取り組み始めたのは最近である。
- (岡本委員) 今のところ、取組を続けた方がメリットがあるということか。
- (事務局) はい。

- (藤 堂 委 員) 「道路照明施設の LED 化」について、公園に設置されている照明は、道路照明とは違い特殊なものなので、まだ一般的になっていないので、公園は実施していないという話を聞いた。公園の照明については、市の方針が決まっていないのか。
- (事 務 局) 公園の照明に対応できる LED 照明が普及してくれば検討することになると思う。
- (奥 田 委 員) 「(12)ごみ半減プランの推進」の「現状と課題」について、“～焼却ごみの半減には至らなかった”とあるが、ごみ半減プランは 30 年度までに焼却ごみを半減させるという計画であるので、“至らなかった”という文言は語弊があるのではないか。
- (森 委 員 長) 事務局としては、ごみ半減プランではなく、トライアル計画で焼却ごみを半減することができなかったということに記載しているのか。
- (事 務 局) そうである。
- (藤 堂 委 員) 生ごみの処理をなくして焼却ごみを半減することは不可能である。トライアル計画は、生ごみの処理を前提として、ごみ有料化をしながらも焼却ごみの半減化が可能かどうかを検証するものである。ここは“～「ごみ半減トライアル計画」を実施した。”とすべきではないか。
- (森 委 員 長) ごみ半減トライアル計画はどういう計画なのか。1 年間でごみを半減するという計画ではないのか。
- (奥 田 委 員) そうではない。
- (森 委 員 長) トライアル計画の報告書はどういった書き方になっているのか。
- (奥 田 委 員) 有料化しても、現状のままでは焼却ごみの半減化は難しいという内容になっている。
- (森 委 員 長) そうであるなら、奥田委員の意見を採用し、「～焼却ごみの半減には至らない試算である。」としてはどうか。
- (事 務 局) 担当課に確認する。
- (藤 堂 委 員) トライアル計画でごみを半減するということは物理的に不可能なので、この内容では誤解を生むかもしれない。
- (奥 田 委 員) 担当課に聞いて、検討してほしい。“半減に至らなかった”というのは語弊がある。
- (藤 堂 委 員) 先日提出したトライアル計画の報告書は、ごみを半減化させるツールのひとつとして、有料化も検討しなければ半減には至らない試算になったという内容である。有料化だけでも無理で、他のシステムづくりも必要である。

- (事務局) 家庭系ごみを有料化しなくてもごみの半減化を達成できるか検討した。できなければ、今後検討して有料化という結論になるかもしれない。記載内容については、もう一度検討する。
- (奥田委員) 「目標／得られる効果」について、“実現する”とか“実現できる”という表現はおこがましい気がする。
- (事務局) ここは得られる効果を記載しており、他の項目についても“～できる”や“～する”といった表現にしている。
- (森委員長) この項目に限っては、次元が違うので、“目指す”で良いのではないか。
- (事務局) そのように修正させていただく。
- (森委員長) “3Rの実践”については、このままで良いか。
- (奥田委員) はい。
- (森委員長) 生駒市の再資源化率は他市と比較しては高いのか。
- (事務局) はい。再資源化を徹底しなければ、ごみの半減化は難しい。
- (森委員長) 事務局案どおりで良いか。
- (各委員) 了承
- (奥田委員) 「(13)財政計画に基づく経常収支比率等の指標管理」の「現状と課題」について、“～増加見込などを加味した”としてはどうか。
- (事務局) この見込という言葉は、社会保障関連費や維持管理費の増加だけでなく税収減にも係っているもので、案の記載内容にした。
- (森委員長) 事務局案どおりで良いか。
- (奥田委員) はい。
- (森委員長) 「前期行動計画での取組」についても、修正案のとおりで良いか。
- (奥田委員) はい。
- (事務局) 数値目標については、毎年度作成される中期財政計画の数字を基に、目標を設定していく予定である。26年度については、25年度に作成した中期財政計画の数値を入れ、これ以降は当該年度の前年度に作成した中期財政計画に記載されている数値を目標として設定していく。
- (森委員長) 現実に合わせるということであるが、事務局案のとおりで良いか。
- (各委員) 了承
- (森委員長) 「(16)行政需要を踏まえた職員数の適正管理」について、現状よりは増やさないということか。
- (事務局) 平成30年度に800人という目標はあるが、中間時点の目標がはっきりしていない。
- (森委員長) これで良いか。

- (各 委 員) 了承
- (森 委 員 長) 20 ページの行革トピックスについて、事務局から修正案が出されているが、これで良いか。
- (松山副委員長) 臨時職員と再任用職員は増えていないのか。増えていないのであればそれを記載すべきである。
- (事 務 局) 人数だけで見ると合計の数は増えていると思う。しかし、臨時職員は週 3 日勤務であったり、勤務時間が短かったりするので正職員に対応する人数への換算が難しい。
- (奥 田 委 員) 臨時職員を増やしているから正職員が減っているのではないのかという意見がある。
- (松山副委員長) そうはなっていないのか。
- (事 務 局) そこまで厳密に換算していないと思う。臨時職員の人件費は把握している。
- (岡 本 委 員) しかし、臨時職員の人件費は物件費にも入っているのではないか。
- (事 務 局) 物件費に含まれる賃金等も人件費に含めて計算することは可能である。
- (松山副委員長) 一度調べてほしい。
- (森 委 員 長) 人件費と物件費の中の給与や委託料のトータルが平成 18 年度からどれだけ削減しているのかを教えてほしい。
- (事 務 局) 委託料に含まれる人件費の算出は困難だが、給与費と臨時職員等の人件費を足したもので良いのなら提示できる。行革トピックスの欄はこのままにしておきたい。
- (岡 本 委 員) それで良いが、資料として提供してほしい。
- (事 務 局) 次回の会議で提示させていただく。
- (松 山 委 員) 後期行動計画全体について、削減するだけでなく、市が後押しをして文化等を育てる施策がほしい。総合計画の方に掲載することでも良いが、行政改革においてもこういった面にも力を入れるべきである。
- (森 委 員 長) 総合計画と行政改革大綱の関係を記載した図があったはずだが。
- (事 務 局) 行政改革大綱の中に記載している。
- (森 委 員 長) それを再確認しておかないと、行政改革では削るばかりになってしまうという意見だと思う。行政改革の全体像が行動計画からだけでは見えてこない。
- (事 務 局) 15 ページの行革トピックスには削減するだけでなく、子育て支援や防犯灯の LED 化等の新規施策の実施もしているということは記載している。

- (森 委 員 長) 個別の項目では行政改革の内容に当てはまってくると思う。例えば民間委託の推進など。
- (事 務 局) 生涯学習施設も指定管理したことで、今まで以上に様々な講座を指定管理者が実施している。
- (森 委 員 長) 行政改革大綱に記載している図を意識してもらいたい。
- (森 委 員 長) 本日の審議の内容を踏まえたものをパブリックコメントの案としたい。

(2) パブリックコメントの実施について

【資料4 「後期行動計画（案）」パブリックコメント実施資料（案）の説明】

- (森 委 員 長) 会議の冒頭で議論した内容は、考慮してもらいたい。
- (事 務 局) 検討させていただく。
- (岡 本 委 員) せっかくパブリックコメントをするのであれば、意見を多く出してもらいたい。
- (松山副委員長) 市役所等の施設への配架資料は閲覧のみなのか。
- (事 務 局) 今回は資料枚数が少ないので配布する予定である。
- (松山副委員長) 後期行動計画に記載していない事項であっても、行政改革に関する意見を書けるようにしてもらいたい。
- (森 委 員 長) 事務局で会議を踏まえて修正いただき、最終案については、委員長に一任でよろしいか。
- (各 委 員) 了承

3 閉会

【決定事項】

- ・本日の審議内容を踏まえて、委員長と調整の上、「行政改革大綱 後期行動計画（案）」及び「パブリックコメント実施資料」を確定し、パブリックコメントを実施する。